



↑ 音声を聞くときはここをクリック

二〇一六年五月二十二日 三位一体の主日

第二朗読 ローマ五章一節から五節★¹

聖霊によって注がれた愛のうちに、キリストを通して神へ

一節このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって ★² 神との間に平和を得ており、

二節このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって 導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

三節そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

四節 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

五節 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、★³ 神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

ちゆう ちゆうしやく
(注) 注 釈はフランススコ会聖書研究 所記「聖書原文校訂
による口語訳 パウロ書簡第一巻」一九七八年を参照しま
した。

注一 第五章について

ローマ書の内容は、第一編「救いについての教え」(一章十六
一節から二十六節)と第二編「倫理的勧告」(十 二章一節か
ら十六章二十七節)に分けられ、第一編は三部 に分かれていま
す。

第一部「信仰の役割」(一章十六節から四章二十一節)

神との和解に至る道

第二部「信じるものを救う神」(五章一節から八章三十

九節)

われわれの信仰の基礎は永遠の命である神の愛を信

じんがいと

第三部「イスラエルの不振の問題」(九章一節から十一

章三十節)

第五章は第二部「信じる者を救う神」の初めの部分です。この

なか、神の愛は聖霊によって我々の心に注がれている(五節)と断言し、信じる者の命は「三位一体」(神・キリスト・聖霊が一体)の神から頂いていることを述べています。

注二 神との間に平和を得て

キリストによつて、神との正しい関係に入った(義とされた)後、神との親しい交わりを得ることができたことを言います。

注三 神の愛がわたしたちの心に注がれている

われわれに対する神の愛は、その霊(聖霊)を私たちの心の中に宿らせ(五章十節)、またひとり子を人類の救いのために犠牲にするほど限りなく深いものです。